

新生徒会執行部をよろしく

5月20日、新生徒会長選出のための立会演説会、選挙が行われ、新生徒会長に石井沙季さん、新副会長に孫静怡さんが選出された。現生徒会は7月5日まで任期があり、大きな行事としては交流体育大会が最後になる。現生徒会は、会長の川村美海さんを中心として、様々な挑戦をしてくれた。挨拶運動、遅刻ゼロへの取り組み、生徒会による全校集合、行事の内容の刷新など、学校の行動指針に沿った新たな生徒会像を築いてくれた。新生徒会への惜しみない協力体制を生徒の皆さんにお願いしたい。

播磨国総社「うちわコンテスト」神戸新聞社賞

夏祭りの季節が近づいた。今年こそは、少し楽しめるようになるかもしれないとの期待がある。そんな中5月11日神戸新聞に嬉しい話題が掲載されていた。播磨国総社が毎年行う「うちわコンテスト」の神戸新聞社賞（第2位）に本校1年生の田中葵さんの作品が選ばれたのだ。早く手に取ってみたい。

「思い」と「思いやり」

「思いやり」は「思い遣り」と表記する。「遣る」とは、「自分の方から他の方へ動作が及ぶ」ことを表し、古語の中では、出発させる、贈る、届ける、与えるなどの意味で使われる。みんな「思い」は持っているのだけれど、それを行動として起こしたり、相手に伝えたりすることをためらってしまう場合が多いのではないかな。例えば、電車の中で自分が座っていて、ご高齢の方が立っておられるとしよう。心の中では「席を代わってあげよう」という「思い」を持っていたとしても、「断られたらカッコ悪い」などという「思い」から、そのまま自分が座り続けたあとで「代わってあげたらよかった」という後悔の「思い」を持ってしまう、自分の温かい「思い」は「思い」に留まって誰にも気づかれない。実際に席を譲る行動を行うことで「思い」は「思いやり」となる。そうすると、ご高齢の方も嬉しいし、自分も温かい気持ちにさせていただける。「思い」を行動に表す勇気を出す。これも一つの「挑戦」だ。

挨拶も同じで、「心を開いて相手に近づく」「思い」を相手に伝えることを、勇気をもってやってみる。一度できるようになると、そのまま継続できることが多い。何より簡単に継続できる。相手も自分も温かい気持ちになる。2・3年生の挨拶の質が上がってきた。笑顔が添えられると、こちらも笑顔になる。

実は、遅刻をしないことも「思いやり」の一つだ。遅刻して教室に入ろうとすると、どうしても授業をストップさせてしまうからだ。集中している級友の学びを止めないために、家を出る時間をしっかり自らマネジメントする。昨年から言い続けているが、5分早寝、5分早起き、5分早出、それで可能だ。

自分がしてもらったら嬉しいことを進んで行い、学校でもそれぞれの家庭でも「思いやり」が広がれば、居心地が良くなる。行動に移さなければ、「思い」は届かない。行動に移すと、「思いやり」になる。

「思いやり」が形にあらわれたことがあった。5月17日、別所小学校の児童が通学途中に怪我をして困っていた。そこに通りかかった本校の2年生の生徒が、手当をし、小学校に連絡してくれたということで、別所小学校の校長先生からお礼のお電話をいただいた。「当たり前のことをしたまでです」とお伝えしたが、その優しい気持ちに心が温かくなった。ありがとう。